

ている。平成18年4月から今年4月の4年間で約2、300人減少しており、これからの山武市の個人総所得金額は下降傾向にある。景気動向に大きく影響する法人市民税、個人市民税については、景気回復がない限り、下降傾向をたどると推測しております。

Q 生産者人口（20歳〜60歳）が年間600人ずつ減少しているが、今後の地域経済への山武市全体での取り組みはどうか。

A 市長 公共的な刺激策によつて景気が上向いていくということとは、難しいという認識が、私の基本的な考え方です。これから介護的、福祉的な需要が拡大し、そちらの予算が恐らく増えていくと考えますと、慎重な財政運営が必要だろうと思っております。積極的に地域振興策を図ろうということとは、なかなか難しいと基本的には考えています。

Q 職員の資質、能力、サービスの向上、意識改革について。

A 市長 この問題は、日々取り組んでいるテーマです。私としては、この4年間を意識改革をもう一度見直す機会として、職員の意識改革について、これからも頑張つてまいるのであります。

Q 旧松尾町では先進的にISOを取得され、職員に「あいつ、笑顔、真心」の3つの言葉を掲げておりました。山武市でも

職員に目標として生かしてほしい。

A 市長 ありがとうございます。3つの言葉、一つ一つ接客業の基本でございます。職員係で掲げやっておりますが、全庁的に大事にしてまいりたいと思っております。

Q 総務部長 常日ごろ、この問題については、職員同士でも話し合っております。ただ、500人近い職員一人一人の対応について、評価はまだ得られていない。全庁的に取り組むたいと思っております。

Q これからの合併特例債事業の取り組みについて

A 市長 合併特例債について、一貫して慎重な姿勢で臨んできたことは事実です。必ずしも投資をしないということではなく、必要なもの、将来が期待されるものについて、しっかりと方向性が決まれば投資については、思い切つた投資をすることはやぶさかではございません。

Q 道路整備等または地域別の構想など、合併特例債事業に当たるものは、どういったものになるのか。

A 財政課長 合併特例債を活用できる期間は、合併後10年ということですが、平成27年が最後の年でございます。特に後年度負担の増大、財政指針への影響等を考慮して、今後、実施計画等に盛り込みまして、可能な限り合併特例債を使えるように、県と協議し

てまいりたいと思っております。第65回国民体育大会が、9月25日から開催されます。千葉国体に当たり、山武市として、どのように考えているのか。

A 市長 山武市は正規の種目ではなく、オリエンテーリング（旧山武町地区を中心）ということですが、山武市としても最大限ご協力してまいりたい。

Q 自然環境の整った山武市で、さまざまな体験学習やスポーツ合宿の受け入れについて。

A 市長 当市では、特に蓮沼地区の民宿の皆様方が積極的にスポーツ施設を整えて、合宿を呼び込んでいただいているということについては、大変ありがたいと感謝申し上げます。市といたしましては、できるだけ皆様方に、便宜を図りたいと思っております。ただ、市の中で積極的に、スポーツ合宿都市宣言ということを行つて、合宿を誘致する市の施設を提供していくだけの余剰の施設が現在のところ難しいのかなと考えています。

A 経済環境部長 山武市からは、情報発信を常々考えており、PR活動で、ここ一、二年力をいれてきており、現在、観光協会の中でも体験学習、農業体験のできる施設がございますので、そういうところに積極的に誘致できるように、県と協議し

き続き行つてまいりたいと思っております。

Q 飯岡一宮バイパス、木戸川に橋をかける計画について、前知事にお願ひに行くと約束をいただきましたが、まだ実現しないままです。計画の実現に向けて市の考えは。

A 市長 知事がわかりました。でも、この重要性の認識については、私としてもしっかりと申し上げてまいりたいと思っております。地域整備センターとも打合せさせていたただいておりますので、頑張つてまいりたいと思っております。

個人質問



高橋 忠 議員

・施政方針について

Q 4月の市長選、過去4年間の実績を訴えていたが、市民の反響、意見はどう感じたか。

A 市長 一番多かったのは医療問題、市として成東病院を残すことは市民の大きな希望、さんむ医療センターとして再スタートでき、市民の希望に添えた一定の判断をしている。

Q 「市民が主役」「みんなで創る山武市」「市民とともに創る山武市」と街づく

りの理念を訴えていたが、具体的取り組み方法は。

A 市長 市民を代表されてる議会の皆さんに市民の声を吸い上げていただき、行政の施策に反映させることは大変なこと。市民が主役ということとは甘い夢を描くということではなく、一緒にやっていこうと訴えをしてきた。

Q いろいろな立場の市民の声を聴く、思いや考えを聴く、大変重要なこと。声の聴き方も大変難しいことと思うが。

A 市長 市民自らまちづくりに参加していただき、ご意見をいただきたい。それが山武市にとって必要なこと。市民の声を吸い上げる機会は様々な形で創つていかなければならない。

Q 複雑かつ閉塞感のある社会です。多様化する市民ニーズに対応する組織体制、職員の資質等、公平公正な市民の声が聴ける体制づくりが必要では。

A 市長 職員のレベルアップを図らなければ市民の有益な意見はいただけません。行政の職員がレベルを高めなければ市民と一緒に街づくりをしていこうという訴えはできない。努力を続けていきたい。

Q さんむ医療センターの看護師不足が言われています。城西国際大学が平成24年に看護学部設立準備を始